

令和3年度 大分県協働推進会議

令和3年8月書面開催（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

各委員への意見照会及び訪問等により意見聴取を行った。

1 報告事項

(1) 令和2年度 県・市町村との協働実績について

(主な意見)

- ・前年度、協働施策を実施したことにより、何がどのように改善されたのかがわかりにくい
- ・前年度からの成果や進行状況等の分析をすることが大事
- ・施策に前向きに取り組んでいるところとそうでないところの差が大きい

(2) 令和2年度 大分県NPO団体等の現状把握に関する調査

(意見なし)

(3) 令和3年度 大分県企業のNPO現場体験活動

(主な意見)

- ・とても良い取組と考える。こういった取組から、NPOと多様な主体との協働が進められると良い。

2 議事

今後のNPOへの支援のあり方について

(主な意見)

●NPO同士の交流・連携等について

- ・NPO法人各自が、補助金等への依存ではなく、それぞれでどのような取組をしているかを学ぶ必要があるのではないか
- ・多くのNPO法人があるが、それぞれで活動の悩みもあると思われる。本音で話ができる会議等があるといいのではと思う。

- ・ NPO法人の連携でできることもあると思われる。
- ・ 県民が安心して暮らし続けられるために必要な事業をより有効に、協働して行っていくことが重要
- ・ 協働体（横連携）、実行委員会形式の事業で、全体をレベルアップする。NPOと行政（市町村、県振興局等）、民（企業等）メンバーとの協働も考えられる。
- ・ NPO同士が多種多様性を認め合いながら、同じ方向に向かう共通の取組（例：生活困窮者等への食支援、コロナ・災害に備えるための訓練・研修等）を何か1つでも各NPOの活動に盛り込めたらと考える。

●中間支援について

- ・ NPO同士をつなぐコーディネーター、公平な立ち位置の中間支援は必要

●その他、NPOへの支援等について

- ・ NPOには、補助事業だけでなく、委託で仕事を作っていく必要がある。
- ・ 補助事業は、立ち上がりのエネルギーとして、一時的な支援には向いている。
- ・ NPO法人が今後活動できるためにも、どのようなことが必要で、その資金の作り方等を示唆してくれる講演会等を開催してほしい。
- ・ 書類の書き方や各セミナーをYou Tubeなどで、いつでも見ることができるようになると良いと思う。そうすれば、それを見ながら、書きながら確認することができる。
- ・ コロナ禍で活動に支障が出ているNPOが多いので、IT環境の整備を進めることは必要。他のNPOがコロナ禍でどのような活動をしているか等情報交換できるし、中山間地域にも遠隔地から支援が届く可能性がある。また、IT環境の格差をフォローしていく事業があるとよい。災害時も役立つ。
- ・ 「おんぼ」はリニューアルされて、とても見やすくわかりやすくなった。他団体の事や協働事例なども、さっと見ることができるので良いと思う。